様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　４ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ２２９９８

研究課題名（和文）チベット仏教カダム派の思想研究に向けた基礎資料の構築

研究課題名（英文）Construction of Basic Materials for the Study of the Thoughts of the Kadam School of Tibetan Buddhism

研究代表者
崔　境眞（Choi, Kyeongjin）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・助教

研究者番号：３０７８５４１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：1.『カダム全集』に含まれるツァンナクパ著の計9点のテクストに対して、文字の判読が可能な作品に限り、全文をデータ化した。2. 各テクストについて詳細な書誌情報をまとめた。それを英訳し、校閲が終わったものを順次、Pascale Hugon博士率いるプロジェクト「A Gateway to Early Tibetan Scholasticism」のウェブサイトにて公開している。3. 上記のデータに基づきながら、ツァンナクパの思想的な位置付けを考察し、その上で、彼と師弟関係にある周辺人物の思想との比較研究を行っ た。その成果を論文としてまとめ、刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2006年の『カダム全集』第1輯出版を機に、カダム派の思想に関する研究が世界各地で始まり、主にゴク・ロデンシェーラプやチャパ・チューキセンゲの著作に関して研究が進められてきた。しかし、彼らの学問的系譜を継ぐツァンナクパの研究は、今後の課題として残されたままである。こうした状況において、本研究は、今まで注目されながらも深く研究されることのなかったツァンナクパという人物に焦点を絞り、新たに残存が確認された彼の著作に対してテクストデータを作成した。また、詳細な書誌情報をまとめ、今後のツァンナクパ研究の土台となる基礎資料を提供した。

研究成果の概要（英文）：I compiled the nine texts by gTsang nag pa included in the Kadam Collection into a data file. I also created a detailed bibliographical information for each text. After translating them into English, they will be made available on the website of the project "A Gateway to Early Tibetan Scholasticism," led by Dr. Pascale Hugon. Using this data, I examined gTsang nag pa's place in the history of Tibetan epistemological tradition and conducted a comparative study of his ideas and those of his contemporaries who were in a master-disciple relationship with him. The results were compiled into a paper and published.

研究分野：チベット仏教

キーワード：ツァンナクパ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

古くは 7 世紀からインド仏教はチベットに伝わったと知られているが、チベットの僧院の中で持続的かつ活発に仏教思想の研究が遂行されたのは 11 世紀以降である。11 世紀から 14 世紀までの間、仏教思想研究の主流をなしたのは、サンプ僧院を拠点として活動していたチベット仏教カダム派の学僧たちであったが、彼らの著述物は散逸してしまったと思われていた。ところが、中国チベット自治区内でカダム派の文献が数多く発見され、その大部分が 2006 年から 2015 年までの間に影印版『カダム全集』として出版された。これを機に、チベット仏教思想研究の進展が期待されている。

ツァンナクパ・ツンドゥーセンゲ（12 世紀）は、カダム派の仏教学を率いたゴク・ロデンシェーラプ（1069-1109）、チャパ・チューキセンゲ（1109-1169）に続く人物として知られており、チャパの「8 匹の獅子」と称される高弟の一人である。また、いわゆる『プトン仏教史』で著名なプトン・リンチェンドゥプ（1290-1364）もゴクやチャパの著作に加えツァンナクパの著作も参照し重視している。『カダム全集』公刊以來、ゴクやチャパはカダム派の仏教学を築き上げた人物として注目され、彼らの著作や思想に関する数多くの研究論文が発表されているが、それに比べてその学問的流れを受け継いだツァンナクパの人物像や著作については研究がほとんどない。今後の『カダム全集』関連の研究は、創始者であるゴクやチャパの思想の解明にとどまらず、彼ら以降のチベットにおける思想史の展開を明らかにすることが期待されている。その点で、本研究を開始した時点では、チャパの学問を引き継ぎ、カダム派の後学に影響を与えたツァンナクパの研究は喫緊の課題であった。

２．研究の目的

本研究の目的は、カダム派のツァンナクパの思想研究に向けた基礎的研究資料の構築である。ツァンナクパは、カダム派の学問的系譜において中心人物の一人として知られているが、彼に関する具体的な研究は十分に行われたとは言えない。本研究では、『カダム全集』所収のツァンナクパによる文献（計 9 点）を研究対象とし、そのテクストデータおよび詳細な書誌情報を作成し公開することを目的とするものであった。本研究の成果は、カダム派の思想史におけるツァンナクパの位置づけ、およびツァンナクパ以降のチベット仏教思想の展開を検討する際に必要な基礎資料となると考えられる。

３．研究の方法

ツァンナクパが著したと言われる文献は、散逸したものも含めれば計 17 点あり、その中で『カダム全集』に収蔵されているのは計 9 点である。9 点全て『カダム全集』第 1 輯第 13 巻に含まれている。本研究はこの 9 点を研究対象とした。それらについてテクストデータを入力し、書誌情報をまとめた。

また、上記の書誌情報を充実させるために、国内外において開催される学会や研究会に参加し、チベット仏教学のほか、チベット歴史学や言語学などの他分野の研究者と意見交換を行った。2019 年 9 月 7～8 日に佛教大学にて開催された第70回日本印度学仏教学会、2022 年 11 月 5 日に東京大学にて開催された第70回日本チベット学会に参加した。なお、2021 年 4 月から 2023 年 3 月まで、広島大学の根本裕史教授と月 1 回程度の Zoom 研究会を開催し、書誌情報に含まれるチベット語テクストと和訳の訂正を行った。2022 年 7 月 11～12 日には、アメリカ Stockton 大学の Yi Jongbok 教授と研究会を開き、各文献の書誌情報の英訳をまとめた。

４．研究成果

以下のテクストについて書誌情報を作成した。

Text 1: *Tshad ma rnam nges kyi ’grel ba*.
Text 2: *bsDus pa’i sa bcad*.
Text 3: *bsTan pa la byi dor bya ba*.

Text 4: *bZhi brgya pa'i bka' gnad bshad pa*.
Text 5: *sPyod 'jug gi rnam bshad*.
Text 6: *sDom pa nyi shu ba'i 'grel ba*.
Text 7: *Byang chub tu sems bskyed pa'i spyi don*.
Text 8: *Skyabs 'gro'i spyi don*.
Text 9: *Byang chub sems pa'i sa'i dka' 'grel*.

各文献に対する書誌情報としては、次の 5 つの項目を挙げた。①文献のタイトル（写本上に見られるタイトル、タイトル情報に関する注記、タイトルの翻訳など）、②著者（写本上で確認できる著者名、Buddhist Digital Resource Center に登録されている人名番号）、③作品の概観（文献のジャンル〔注釈、概論書、伝記など〕、主要なテーマ〔中観、唯識、密教、論理学など〕、内容のアウトライン）④写本そのものの残存状況（文献全体の長さ、欠落ページ、貝葉ナンバー、縮約字の解読方法、そのほか写本に見られる書写上の特徴など）、⑤引用と翻訳（冒頭部、各章終わり、最終部の廻向偈、奥書）。

このうち、Text 1-4 については書誌情報の英訳を完成した。オーストリア科学アカデミーの Pascale Hugon 博士と相談し、同博士率いるプロジェクト「A Gateway to Early Tibetan Scholasticism」に、この書誌情報を公開することに合意した。Text 1 から Text 4 までは近日中に公開される予定であり、残りのテクストに関しても英訳の校閲が完了したものから順に公開していく。そうすることで、『カダム全集』所収の全作品についての書誌情報を集める同プロジェクトに貢献するとともに、この研究成果が国際学界において有効に活用されることが期待できる。

また、ツァンナクパの思想と、彼と師弟関係にあったツルトンなどの思想を比較する研究を通して、ツァンナクパの思想的な位置付けを行った。その成果を単著の一部としてまとめ、出版した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Pascale Hugon and Kyeongjin Choi	４．巻 44
２．論文標題 Phya pa chos kyi seng ge on the Invalidating Argument in the Proof of Momentariness	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of the International Association of Buddhist Studies	６．最初と最後の頁 209-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2143/JIABS.44.0.3290293	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 崔境眞	４．巻 69
２．論文標題 13世紀のチベット人学匠による刹那滅論証の理解	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本チベット学会々報	６．最初と最後の頁 掲載予定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 崔境眞
２．発表標題 13世紀のチベット人学者達による刹那滅論証方法の理解
３．学会等名 第70回日本チベット学会大会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

１．著者名 高橋晃一、根本裕史、Achim Bayer、彭毛才旦、李 学竹、崔 境眞	４．発行年 2021年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 162
３．書名 『『阿毘達磨集論』の伝承　インドからチベットへ、そして過去から未来へ』	

１．著者名 崔境眞	４．発行年 2023年
２．出版社 山喜房佛書林	５．総ページ数 296
３．書名 チベットにおける刹那滅論証の伝承: Pramanaviniscayaの注釈書を中心に	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関